### No. 73 2022年春号 2022年4/15発行

## 專教寺寺報

净土真宗本願寺派 一乗山 専教寺 〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033 TEL.0866-82-0488

URL.https://www.senkyoji.com/ E-Mail.senkyoji@senkyoji.com



# 巨久的な平和がもたらされるように兵 戈無用

そ

の

父

親

に

抱

き

か

か

え

幼

61

子

供

でも

兵

隊

釋

龍

生

が 線 見え 態 を 7 シ 辿 61 は ア る 期 な イナ な り、 依 T ケ ഗ 連 然と 被 61 61 月 侵 化 سع 邦 玉 る 害 改 が 攻 ഗ こ 善 経 を が を 内 U 様 ろ ウ も な の て 開 相 喎 平 た 玉 か 糸 か を 始 5 行 ょ 民 た 景  $\Box$ 

士 5 の ウクラ ピン 腰 兵 媏 げ  $\pm$ 61 に た。 ビ 供 7 だろうか、 での イナ か のニュ だ け か 61 ろ ウ 映 な る て の う、 武器 クラ 像 都 61 子 そ が 市 1 ス 供 の を 1 流 ま 胸 ナ ιŠΐ か さ 1 0 乱 揚 狂

親

ま

だ

幼

61

が

る。

供 を熱 そ シ て くりながら別れを嫌 何 0 5 3 の を 61 度 か れ る。 くさせられた。 ツ 光 持 も ıSï る キン ٥Ď 景 る 腕 は 私 き、  $\wedge$ 0 **)**グで、 ル あ に じ ф とっ 年 泣きじ ま X り 頃 ツ て、 に 1 ഗ がっ 子 も 頭 ゃ を 経 5 う な 現 す あ い る

思ろ

あ

が 本 光 n わ ഗ 約 でも て、 < で 八 景 る h Ŋ +ば は を  $\Box$ な かえされて 年 背 本 幾 か 同じような 前 9 重 61 に の だ 出 に に 玉 旗 も 士 ろうか。 我 征 す 振 気 が 高 る 光 国 そ り 5 光 ょ 広 犯 61 の れ

し うあ を不 て、 ため か。 景 る げ ビ 験 か る を することさえ ウク て 巡 に 5 の 者 つ 感 父 ñ は ゃ 幸 7 親 で 5 当 た 情 画 関 父親 を、 ラ る な ま に あ せ 時 面 の わ 胸 らちをニ 1 5 す る る な の ഗ で が で る とし ナ シ 連 な 全  $\Box$ が は 純 別 締 侵 5 戦 て 本 本 許 粋 61 な め ア れ 軍 度 争 繰 ഗ に か 人 さ 攻 に

もと

葉がある。この意味は、 説 典 兵 無 戈無 土 浄 真 土 寿 宗 用 部 経 の ع 所 経 いう言 依 の に **D** 仏 経

とし

が

み

つ行

61

てな供

泣

父に

ち

ゃ

か子

61

ゃ

<

る

の

制

下

の

 $\Box$ 

本

で時

は

1

**(1)** 

を重んじ、 国の軍隊が、 えなかった。それぞれ 迦さまの時代も戦争が という意味である。お釈 に暮らすことができる、 り合いの心を持って平穏 うことなく、互いに 民衆も武器を手に取り 世の中は平和に治まり、 で、その教えに導かれ、 仏さまの救 念 仏)に出遇うこと 61 思いやりや 自玉 のはたらき っ 利 礼 益 の 絶 譲 儀 争

۲ 自 互の排除をのり越えて、 状を変更しようとする暴 視し、武力で一方的 があろうとも、人命を軽 ライナ侵攻に対する声明」 度による厳しい対立 反対の意を表 力的な行為に抗議し の中で、 「ロシア連邦によるウク 他共に心豊かに生きて また 「いかなる理由 「思想文化 します が相 強 や制 に 現

> 久的な平和がもたらされ にあらためて味わい、 ることを切に願う。 刻も早くウクライナに恒

きれいな花火ばかりつくっ みんな爆弾なんかつくら きっと戦争なんて起きな ていたら、 ないで、

令和3年12月31日(金)





いたのではないだろうか。

画

家

あ出

引下清

の言葉を掲

浄土真宗本願寺派は、

示

した。その言葉を最後

実を目の当たりにされて

してお釈迦さまはその現

掲

,載

以前、

お寺

の掲示板

たのではなかろうか。そ

いる。

(一部を抜粋し

力無き民衆や子ども達だっ

た

します。」と発表して

も戦争の犠牲になるのは 取り殺し合う。この時代

かれてくるものと確

信

和を実現する道が切

の拓

る先にこそ、恒久的

る平

を貪るために武器を手に

61

けるよう、

共に努力す

かったんだな

# 関 わ る 報道 てられ

佐々木 龍

に 押 込 h で 聞 飢 え を

た

新

紙

を

て

U

ع

話

さ

また、

生

を

振

り

返

喉

戦 ഗ 61 だ とい ま す

本 疎  $\equiv$ 開 願 次 市 寺 派 に き 抜 Ш く 上 本 さ で、 h が 心 戦 の 後

となっ Ξ n さ て 勤 び لح め L でし で た 心 ഗ た。 が を 静 寺 め 毎 朝 で じ 手 ഗ **ത** を 学 お

た

被

爆

者

Ш

本

省

ŀ١ h

ま

し

た。

ഗ

記

事

が ഗ

掲

載

さ

後

に

原爆

孤

児

の

お

寺 浄

学 真

童

あ

る

宗

争

ф

に

広

島

県

囷

新

誾

に、

太

亚

洋

投 下 Ш さ 本 n さ h た は 八 • 月 六 原 爆 が

て 畑 ഗ 広 開 島 墾 市 作 ഗ 業 を 方 角 に て 白 61

市 ご 自 戻 身 り は 被 Ξ 爆  $\Box$ 後 に 広 画 親 島

61

煙

を

見

た

۲

61

61

き 犠 ょ う 牲 に だ な 61 り 四 人 ま は U た。 原

爆

بح

前 そ で の 鉄 < は ず を 玉 集 鉄 め 広 島 て 謝 け け ഗ

駅

稼

時

は

ょ

う

仏

さ

ま

手

を

教

え

て 助

<

だ 合

さ う

しし

ま き

し

す

ね

気

持

ち

を

忘

n

な

敬

61

け

生

方

を

て

生

か

さ

れ

て

61

る

**ത** 

仲

間

だ

共

を 牛

合 わ せ る 所 作 を 通 支 て え

を 周 育 井 まれ に 感 たそうで 謝 す る 気 **कें** 持 ち

は、

私

ഗ

61

の

ち

だ

け

で

な た

友

人、 知·

人などに

よっ

61

ഗ

ちで

あ

り

家

族

ち Ш に 本 さ  $\neg$ んは、 話 U 合 子 61 تع も 理

解 た し 合 61 感 謝 U 合 61 え に ま も

ま ब्रं ば  $\neg$ み h 争 な 61 は の 起 手 は き な 誰 か

を 61 じ め た 0 傷 つ け

さ

ま

か

5

平

等

に

願

わ

n

存

√,

て

ഗ

61 親

の

ち

が

冏

弥

陀

す

鸞

た

61

の

ち

だ

か

5

お

互

61

は

御

同

朋

お

た じ 9 す ゃ る な 61 た め に 互 あ 61 に る わ 助

合 う た め に あ る

仏

れ わ て せ 61 るそうで ほ い

に な 囫 5 弥 陀 n さ た ま 大 ع 切 仏 な 方 さ ま 々

ち

は

人

. で

生

き

て

き

て

み

ま

す

私

の

61

**(**)

願 世 私 界 か が 5 苦 救 U み わ れ ഗ る 迷 ょ 61

に

至

る

ま

で、

数

き

れ

に

気

づ

か

さ

れ は

ま

す

私

た

61

の

ち

で

な

61

こ

ح

な

61

ほ

تع

多く

の

先 え

袓

か

は

ま 61 す 続 け 私 て < の だ た め さ に つ

5

袓

父

<del>③</del>、

画

親

の

り さ 5 難 に いことです 囫 弥 陀 さ ま

の

ち

が

繋

がが

っ

て

授

か

つ い

有

て

61

う

の

< 生 き بح U 生 け る

て

育

ま

れ

てきた

61

の

多くの

生

き

も

61

な

願 の、 す \" て ഗ 61 の ち

61 を か け 5 れ て 61

聖 人 は す で の に あ 支 り、

お の ちです。 互 61 え が 5 関 このように、 ñ わ 7 い

在 U て 61 ることを り合って

仏 教 ま す。 で は 私 のい 縁 起」とい のち ば

様 61 々 な 縁 を 61 た だい

ち

61 持 61 私 仏 بے が لح h ま る を さ り 無 ざ 助 も を す 支 ま に 関 ま て け に 様 世 に 合 忘 ベ え 思 係 な 界 61 々 道 き う て て 手 61 な で 出 ф さ れ 囫 に < を ご 生 弥 を は 来 で n に き 感 だ 合 陀 寄 縁 あ 起 61 事 て 方 謝 さ わ さ せ 61 共 の 9 も  $\subset$ 61 る を に つ せ ま る つ ま ま の 心 敬 気 て せ ۲ 私 さ な 大 で せ す

### ほ ほ ż ま 佐々木 ひろみ

犬

1

#

勢

つ

て

が て な な き 夕 لح いと れ 61 応 h 信 ま て、 で つ ろ 思 光 徒 に す 1 ま た **61 61** ゃ お 景 の す 続 る 木 人 こ Λ, す 話 が ろ ま を 方 Ξ ン 61 大 り 来 ۲ す 見 は 歳 人 が 話 来 て た で 5 が せ て 寺 犬 ഗ 鳴 ഗ れ う る お さ が 61 も に 息  $\subset$ 後 る 息 つ とイ 気 行 る n ょ 子 5 の れ 子 ろ に 持 自 こ بح U う は れ ょ た 61 に 門 分 う 喜 < る う て そ 妏 ち 続 お いか 5 デ が い前 し 長 五 は

> 年 ح 5 つ ネ 犬 ഗ ع بح た 同 体 前 オ は 話 犬 思 を じ び 重 で 1 に で、 は < 付 里 す 八 IJ  $\equiv$ せ 5 親 "\ 歳 < ح 来 ح て 61 ネ ഗ あ 私 た ゴ kg オ 61 بح り < て は た の 1 ま 身 5 き も だ 前 ル 怒 た。 < 手 て て 61 な の ょ れ る を 61 う 体 毛 て ことな U ネ < ح に ネ います。 な オ ょ 積 つ 触 な オ が は う 極 か り 9 に 5 に < 的 ま た 興 見 上 な に つ 味 い ιŠ١ 決 寸 手 9 近 て わ に み つ U ま づ 大ふ 示 て た き て 相 しい わ

とに 以 る 61 な 家 ょ 族 上 ょ 61 息 な う に う ょ は 子 りまし が ネ に う ح 産 < オ ネ ま オ ま な を た。 が れ る か 嫉 る に た n 寂 わ 妬 ٢ 61 ま U U が で な < 息 す 0 な لح て げ を 才 て 0 1 な

۲

う

り

に

子 ょ な

を

内村 壽美子

が

す

ぎ

は

皆

家

で

も

室

内で

飼

うこ

て

入

つ

て

3

て ネ

ン

1

ンと

ま

る

 $\neg$ 

も 叩

怒

5 で

61

た

بح

61

うこと

で、

我 て

そこ

に

オ

۲ た

な

61

性 大

格 好

す

こ

とを

の 子

を が

人

が

で

あ

る

 $\Box$ 

息

危

私な

の

飼

61

主

が

そ

う で き

とがいこ

注

意

U

ま し

U た

た

ま 子 が 大

し

感 て

て れ 息 う

<

て

61

は こ の 息 子 ح

た

て h 強

つ

て

11

に

迷 7

惑

を 時

け

**(**)

揚

を ま

借

り

て

お る お に

詫 **ഗ** か

寸 に る で め < 私 が ഗ ろ あ て の の 割 す ネげ あ っる で肩



表た、先日、ネオを動物病院に連れていかなく ですが、車に乗った途端、ですが、車に乗った途端、 ですが、車に乗った途端、 ですが、車に乗った途端、 ですが、車に乗った途端、 した。すると息子が、 も頼もしい言葉でした。 この二人、べったりで はないけれども、お互い に自分が相手を守らなけ ればと思っているから。」 もな関係に見えます。見 さな関係に見えます。見 せな気分になります。



## たよってうれしい、たよられてうれしい。 認定NPO法人おてらおやつクラブ

専教寺では、困窮する家庭の支援や子どもたちを育むために、おてらおや つクラブに登録して物資支援の活動をしています。

前回は、門信徒の方に声をかけてご協力いただきました。集まった支援物 資はおてらおやつクラブに登録している支援団体へ届けました。

今後、ご協力いただける方は、以下の物を専教寺に届けてください。

(持ち込みでも宅配便でも受け付けます)

支援物資は随時受け付けております。

少しでも構いませんので、ご協力いただけるとありがたいです。

- ・食料品(1ヶ月以上は消費期限のあるもの)
- 文房具 (新品)
- ・子供服(洗濯済、汚れのないもの)
- •玩具(小学生以下対象)

# **貸内池清掃**





令和3年11月29日(月)





一乗山専教寺では、2021(令和3)年に門信 徒のご協力のもと、納骨堂を建立いたしました。

当寺では随時、納骨堂の見学や説明を受け付けて おります。お気軽にご相談ください。

なお、見学を希望される場合は、事前にご連絡く ださい。

(専教寺納骨堂は、専教寺門信徒専用です。)

許可年月日:令和2年10月22日

許可番号:岡山県指令備中局地 第251号



今月厳修予定の永代経法要は、新型 コロナウイルス感染症の感染拡大、ク ラスター防止のため門信徒の参拝を中 止いたします。

新型コロナウイルスの感染拡大につきましては、依然予断を許さない状態が続き、ご配慮の続く日々と拝察いたします。

当面の行事について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、クラスター発生防止のため、前年と同様に門信徒の参拝を中止する予定です。コロナ禍の状況が好転した場合、あらためて今年度の行事予定をお知らせいたします。





净土真宗本願寺派 一乗山 専教寺 電話 0866-82-0488

専教寺の臥龍松の紹介映像を

倉敷市公式 YouTube

「高梁川流域デジタルアーカイブ」

で観ることができます。

専教寺のホームページにもリンクしています ので、ぜひご覧ください。

## 以能松保存のための寄付をお願いします。 以能松を維持管理するには たくさんのお金がかかります。 矢掛町の重要文化財の保存に ぜひともご協力下さい。 一口1,000円から受付けています。 1,000円ご寄付の方には以能松のポストルトト をプレゼント。おきにご連絡下さい。

※この引いはめてよ (正意です